第1回検討委員会開催

3月1日(日)に、第1回南魚沼市医療のまちづくり検討委員会を公開で開催しました。

検討委員会では、亀井美登里氏が委員長に、上家(かみや)和子氏が副委員長に任命されました。

その後、福祉保健部から市の現状を報告し、2人のゲストスピーカーからの提言、委員からの意見などをいただきました。

検討委員（令和2年3月1日現在） 敬称略

氏名	所属
亀井美登里	埼玉医科大学医学部教授
上家和子	日本医師会日医総研主席研究員
山﨑理	新潟県福祉保健部副部長
小幡文弥	北里大学保健衛生専門学院学院長
外山千也	地域医療振興協会常務理事
冨永衛	南魚沼郡市医師会会長
大西康史	南魚沼市福祉保健部参事

検討委員会委員長
亀井 美登里 氏

亀井氏は、医学部と法学部を卒業後、厚生労働省に入省、同省大臣官房付（地域医療担当）審議官などを歴任され、現在は大学教授としてご活躍されています。その高い知見と公平性により、手腕が発揮されることを期待するところです。

ゲストスピーカーからの提言

医療法人社団萌気会理事長
黒岩 卓夫 氏

「医療再編が話題になるまで魚沼地域には、ゆきぐに大和病の他に小出、六日町、十日町の県立病院がありました。規模や対象、医療レベルも同じで、何かあれば長岡などに搬送しなければならないのが実態でした。

研修医制度の改革があり、医師不足が起き、再編という動きになってきました。

今の基幹病院にさまざまな問題があるにしても、基幹病院を「医療の中心」に据え、医療機関の連携を考え、信頼のおける血の通うものを築いてもらいたいです。

市民病院は、「医療連携の中心」として地域医療センターになってもらいたいです。基幹病院や診療所とも連携をとり、市でどういう医療が良いのかということを考え、リーダーシップを取るということを市長と市民病院に担ってもらいたいです。

次に、在宅医療の中心は、診療所が良いと思います。日本の第3の医療と呼ばれる「在宅医療の中心」を担ってもらいたいと考えています。

市民病院の運営、特に医師確保についていろいろ考えましたが、今の公立のまま再建するのは難しいと思いました。そうなると市の指定管理を受けてやるような公的病院に脱皮するのが望ましいと思うようになりました。

市民病院、ゆきぐに大和病院については、病院群ではなくひとつの病院として、まずは中心的な市民病院が財政的にも自立できるように再建してほしいと思います。

市は医療連携の責任者なので、市長はそのような気持ちで大胆に取り組んでほしいです」

もう1人のゲストスピーカーである地域医療振興協会企画調査部長の岡本靖氏から、病院運営などについての提言があった後、委員のみなさんからも以下のような意見をいただきました。（一部抜粋）

- 城内診療所はあり方を考えるとしても、ゆきぐに大和病院と市民病院は統合した方がよいと思います。将来の市民に対する医療サービスを持続させるには、できるだけ早く統合して効率的な運営をした方がよいと思います。
- 地域完結型医療センターとしての機能を果たすためには、この地域にない回復期リハビリテーション病棟の検討が必要だと思います。併せて介護医療院や介護病床などの最期までいることのできる施設があれば良いと思います。
- 若い研修医には、地元の人と密接に関わって地域医療の魅力を感じてもらい、5年後10年後に戻ってきてもらえればと思っています。
- 長野県の病院のように自前の施設で総合医を養成して成功しているところもあります。時間もかかるし成功するかは分かりませんが、そういうところを目指すのも1つの案だと思います。
- 病棟には治療が終わったのに帰れない人がたくさんいます。介護保険施設や在宅医療を支える在宅ケアが脆(ぜい)弱。介護保険の整備も検討委員会で考えて良いのではないでしょうか。

今後も年間複数回の検討委員会の開催を予定しており、検討委員会の提言を受けて、課題の解決に向けた方向性を示していきたいと考えています。

■詳しくは市ウェブサイト（「医療のまちづくり検討委員会」で検索）をご覧ください。